

(仮称)

五 條 市
民 交 流 施 設

(仮称) 五條市市民交流施設

基本計画

事業の目的

公共と民間が連携し 五條市の中心市街地を“わくわくできる”場所に

五條市は、中心市街地を“わくわくできる”場所に変えていくことを目的に、「中心市街地の活性化・にぎわい創出のためのまちづくりプロジェクト」に取り組んでいます。

このプロジェクトは、少子高齢化、人口流出、公共施設の老朽化、活力低下、商業施設の閉店・撤退、市民生活の利便性低下といった本市の中心市街地の課題に、公共と民間が連携して取り組むものです。市はイオンリテール株式会社、奈良交通株式会社、ならびに株式会社南都銀行と、令和4年12月に「まちづくりに関する基本合意書」に調印し、検討を開始。民間企業との協働を通して、スピーディーで確実性の高い施設整備を目指すとともに、まちづくりの主役である市民の意見の十分に反映するため、市民ワークショップの開催等の取り組みを重ね、プロジェクトを推進しています。

本計画の整備対象

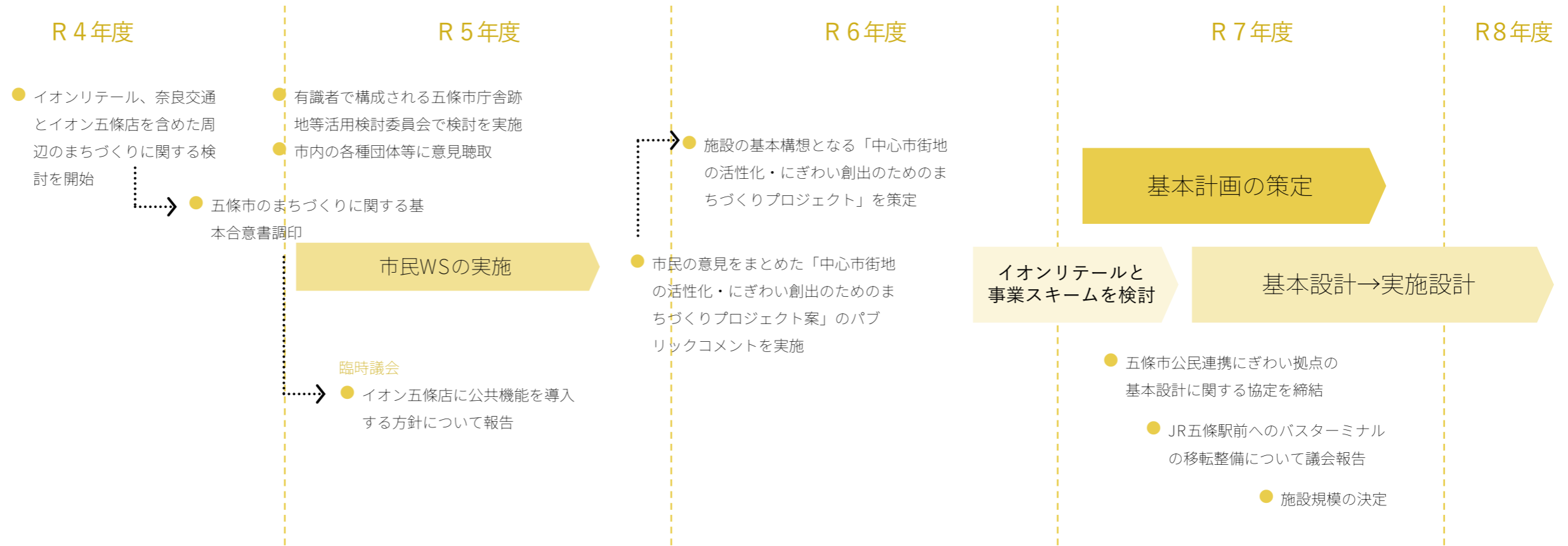
まちづくりプロジェクトで検討を行ったエリアは、イオン五條店周辺、旧庁舎跡地、五條新町などの範囲です。その中でも本計画は、イオン五條店周辺に導入する市民交流施設の公共機能について検討し、具体的な計画をまとめたものです。



1 まちづくりプロジェクトの検討経緯

■ 検討の経緯

令和7年には、事業アドバイザーの選定を行い基本計画の検討を開始しました。同時に五條市と協定を締結したイオンリテール株式会社により、新しい施設の基本設計が開始されました。



■ 事業スキーム

4つの基本方針

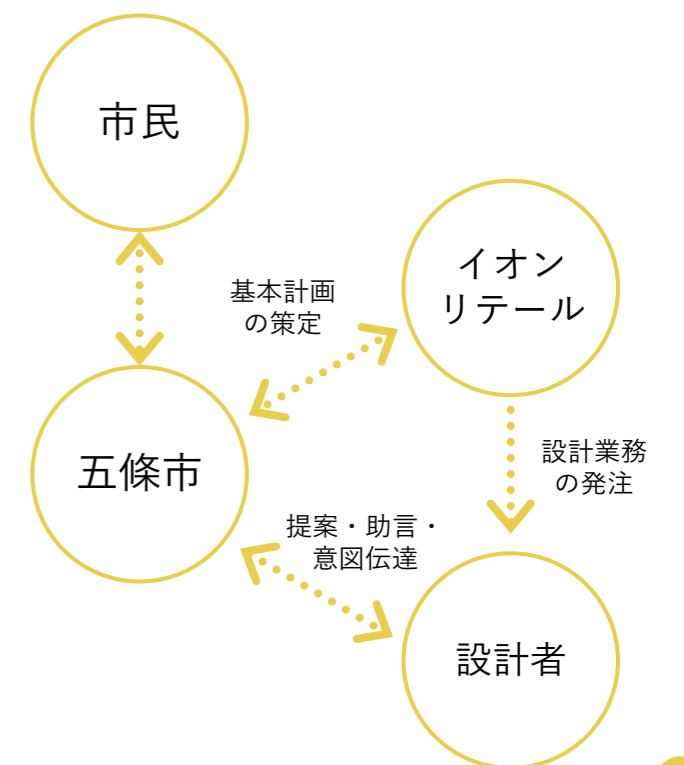
事業を推進するための基本方針として、以下の4つを定めています。

- 五條市全体の活性化、市民の利便性向上。
- 持続可能なまちとするため、地域の魅力を高め、近隣市町村を含む広域的な集客を目指す。
- 持続可能なまちとするため、民間の資金、アイデアを最大限に活用する。
- 市民、地域の団体等に丁寧に意見を聞く。

また事業を推進する体制構築のため、民間企業との協定を締結しました。

イオンリテールと「五條市公民連携にぎわい拠点の基本設計に関する協定」を締結

- 公民連携（PPP）手法により民間のコスト感とスピード感で設計業務を効率的に実施
- イオンリテールの商業施設と市の公共施設をあわせた全体の設計業務を一括でイオンリテールが発注
- 市は公共施設にかかる費用をイオンリテールに支払う







1 まちづくりプロジェクトの検討経緯

■ 事業用地

事業実施場所による波及効果の検討や市民の意見のヒアリングなどを重ね、以下のように事業用地が決定しました。

全体事業用地：約19,500㎡（約5,900坪）



- | | | | |
|---|--------------------------------------|---|--|
|  | イオンリテール(株) 所有地
：約11,600㎡（約3,500坪） | ➡ | イオンリテールが商業施設を整備 |
|  | 公共施設を整備 | ➡ | 市が買収 |
|  | 駐車場として整備予定 | ➡ | うち、  部分（今井2丁目125番の2）
は市が買収：595㎡（約180坪） |

1 まちづくりプロジェクトの検討経緯

市民の意見聴取

まちづくりプロジェクトでの各種ワークショップのまとめ

公立学校等での事業説明
市内公立こども園（3園）、小学校（4校）、中学校（3校）で説明と意見交換を実施。



高校生検討部会
市内3校の高校生を対象にワークショップを開催。



遠足型ワークショップ
市民と一緒に先進施設を視察し、意見交換を実施するワークショップを6回開催。



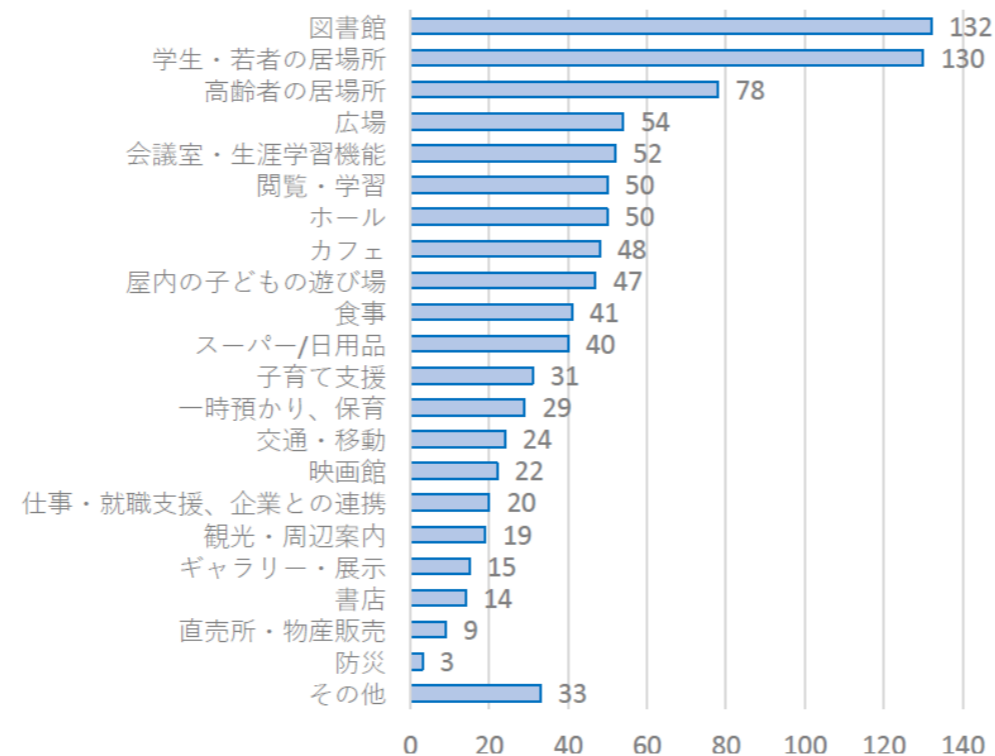
遠足型ワークショップ
まとめミーティング
遠足型ワークショップ参加者を対象に、意見のまとめミーティングを開催。



市民総合
ワークショップ
これまでの意見を取りまとめるワークショップを開催。



イオン五條店周辺に求められる機能



- イオン周辺には市のランドマークとなるものを。
- 旧庁舎跡地はアクセスが良くない。人が集まる複合施設はアクセスが良いイオンで整備した方がよい。
- バスターミナルやタクシー乗り場もある。中高生や高齢者などアクセスしやすい。
- 図書館と子育て支援施設、スーパー、飲食店が併設した複合施設をイオン周辺に。
- ショッピング、子育て、学びなど機能を複合化して、イオンの場所に。公共機能だけでなく民間の商業施設と一緒にすることで面白さが増す。
- 図書館や自習室の機能があれば、駅からも近く高校生が使いやすい。保護者が送迎する時も便利。
- 生徒が交流できる場所、20代以下が利用できる多目的な図書館を。
- 放課後の子どもの勉強場所等、子どもや一人親の支援施設がイオンにあればよい。

市民の意見を満たす市民交流施設のあるべき姿

基本構想で行った市民ワークショップ等から、市民がイオン五條店周辺の中心市街地に求められる機能を基に、市民交流施設に導入する機能を下表のとおり検討しました。

施設機能	施設	包括する機能
● 図書館機能	図書館	学生・若者の居場所
		子育て支援
		高齢者の居場所
		閲覧・学習
● 子どもの遊び場機能	屋内の子どもの遊び場	仕事・就職支援/企業連携
		会議室
		生涯学習機能（会議室）
● ホール機能	ホール	カフェ
		書店
● 子育て支援機能	子育て支援施設	子どもの遊び場機能
		映画館
● 広場機能	多目的広場	防災
		一時預かり、保育
● 共用部分	廊下・ギャラリー	広場機能
		観光・周辺案内
		ギャラリー・展示
● 民間商業施設	スーパーマーケット	直売所
		食事
		バスターミナル
● 交通・移動		交通・移動

2 関連施設の現況整理

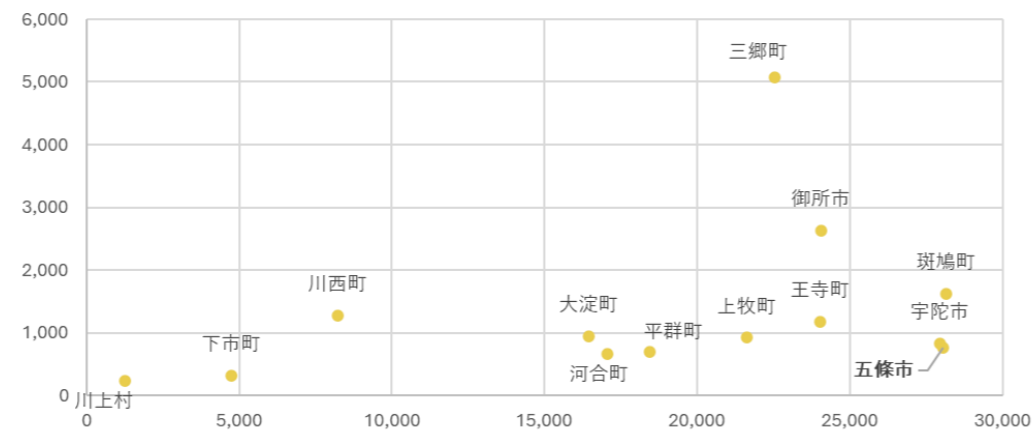
■ 五條市立図書館

現況の整理

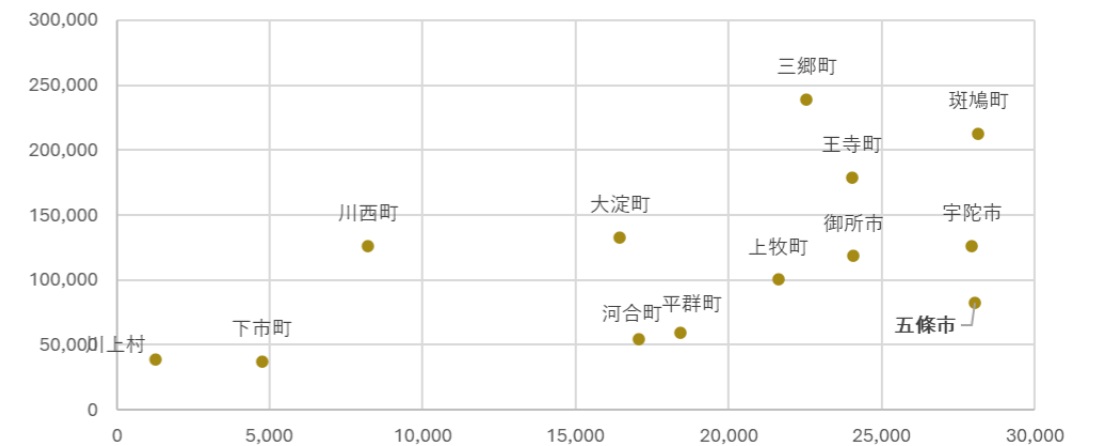
- 市立図書館の運用状況は右表のとおりで、電子図書館も活用しながら、市域全体への図書館サービスに取り組んでいます。特に、学校連携が活発で、市内小中学校から毎年モデル校を選出し、学校図書室の環境整備や調べ学習支援などに取り組んでいます。
- 奈良県内の人口3万人以下の自治体間で図書館の整備水準を比較すると、五條市は人口規模に対して、施設規模・蔵書規模共に低い状態です。また、全国の同規模の自治体と比較しても、延床面積、蔵書冊数、貸出数いずれも少なく、図書館サービスの基盤となる蔵書の整備水準が低い状況となっています。
- 図書館サービスのさらなる充実や利用促進のため、蔵書の拡大が必要ですが、現在の図書館には効率的に蔵書を保管できる書庫スペースなどがなく、現状より多くの蔵書を受け入れることができません。さらに、新聞や雑誌が読めるブラウジングスペースや、自習ができるスペースの確保が難しく、滞在型の利用ニーズに応えるためのスペースも不足しています。

項目	内容
所蔵状況	図書：83,116冊 雑誌：53誌（うち寄贈5誌、オーナー雑誌27誌） 新聞：7紙
利用実績（R6年度）	登録者数：15,135人 来館者数：23,441人 貸出冊数：46,575冊 予約件数：1,173冊 レファレンス件数：801件
定期イベント	【読み聞かせ】 おはなし会（ボランティア）月1回 えほんのとびら（図書館職員）月1回
学校等連携事業	【学校連携】 図書館見学、職場体験、団体貸出、学校支援（モデル校を定めて授業や図書室運営をサポート）、子ども向け配布物の発行 【その他の支援】 こども園やイベントでの出張読み聞かせ、認知症カフェへの出張貸出、雑誌オーナー制度等
アウトリーチサービス	電子図書館コンテンツ数2,427点（R6年度貸出点数7,492点）

延床面積/人口（人口3万人以下の奈良県内自治体）



蔵書冊数/人口（人口3万人以下の奈良県内自治体）



全国の人口1～3万人規模の自治体との比較

	延床面積 (㎡)	蔵書冊数 (冊)	登録者数 (人)	登録率 (%)	貸出数 (冊)
五條市	761	82,621	14,727	52.5%	44,040
中央値	1,146	105,618	10,910	60.6%	67,933

2 関連施設の現況整理

子育て支援センター 「はっぴい」

休業後の状況

- イオン五條の2階で一時保育や子育て相談などの子育て支援事業に取り組んできましたが、令和7年2月のイオン五條の休業に伴い、一部の機能は他の施設に引き継いで実施しています。
- 親子で遊ぶ場「わくわくルーム」は「みんなの広場」に名称変更の上、五條児童館で毎日実施しています。また、はっぴいで実施していたイベント「はっぴいに集まれ！」はカルム五條の「つどいの広場」の時間の一部を使い、週に2回程度実施しています。
- 一時預かり事業「にこにこルーム」は休止中のままであり、代替機能を持つ施設が必要です。



市民会館

閉館前の利用状況

- 395席のホールのほか、会議室や応接室などを備え、市民の文化芸術活動や生涯学習を支えてきましたが、施設の耐震性の問題により、令和4年閉館しました。
- 現在は代替施設として、シダーアリーナ、市役所新庁舎（大会議室、五條モール、コミュニティルーム）、各公民館等を案内しており、市外の公共ホール等を利用して活動する場合は助成金を交付しています。
- 市民会館が閉館する前、かつ新型コロナウイルスの流行による影響が少ない令和元年度の利用実績では、ホール利用は37件で、用途は多い順に研修・講演会、音楽発表会、式典となっています。その他の会議室・応接室等の利用も16～54件で、他の施設と比較すると、利用はあまり活発ではありませんでした。
- 本施設の検討に当たっては、代替施設の利用状況なども参照しながら、市民会館から引き継ぐ機能や、本施設に新しく付加し、新しい利用を生み出す機能を整理していく必要があります。

室名	研修・講演会	音楽発表会	式典	生涯学習発表会	カラオケ	会議・総会	その他	総計
ホール	10	10	7	5	3	1	1	37

室名	ホール準備	会議	検診	イベント	講習	販売・営業	総計
ロビー	6	0	0	9	0	2	17
2階A	5	14	0	7	0	3	29
2階B	5	10	0	7	0	15	37
3階A	6	12	2	5	0	1	26
3階B	4	34	1	10	2	3	54
1階小	12	3	0	6	0	0	21
2階小	5	16	0	5	0	19	45
2階応接	3	6	0	4	1	2	16
計	46	95	3	53	3	45	245

中央公民館

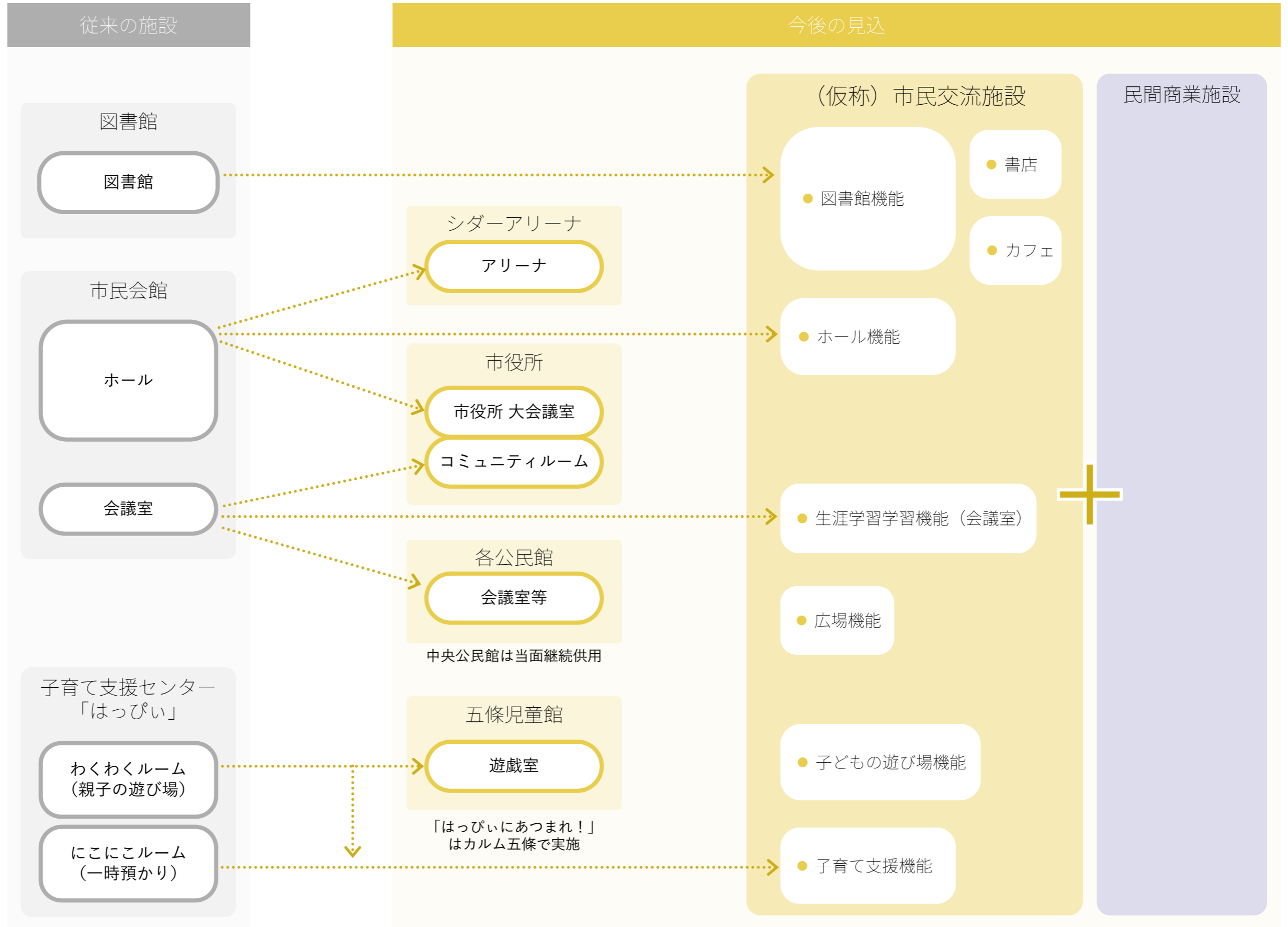
参考：最新の利用状況

- 市民会館の代替施設の参考データとして、令和5年度の中央公民館の利用状況を示します。
- 利用は登録団体による決まった曜日・時間帯の定期的なものが中心で、全体の98%を占めます。用途別では語学・教養が最も多いほか、アート・クラフトや音楽、体操・ダンスも活発です。
- なお、中央公民館等の公民館施設は、本施設整備後も引き続き供用する予定です。公民館施設の利用実績から市民ニーズの傾向を把握するとともに、本施設と公民館施設の役割分担にも考慮して検討を進める必要があります。

諸室	アート・クラフト	音楽	会議	研修	語学・教養	体操・ダンス	料理	総計
1階調理実習室	48	0	0	0	12	0	49	109
1階美術工芸実習室	288	0	3	2	48	60	0	401
2階A会議室	0	0	3	0	96	72	0	171
2階B会議室	0	0	4	2	124	72	0	202
2階研修室	0	48	2	2	144	0	0	196
2階和室	60	48	0	0	0	36	0	144
2階クラブ室	0	24	1	0	72	0	0	97
3階大会議室	0	180	14	1	0	0	0	195
3階控室	0	0	1	0	0	0	0	1
3階音楽視聴覚室	0	96	2	0	48	156	0	302
総計	396	396	30	7	544	396	49	1,818

2 関連施設の現況整理

従来施設の機能の今後の見通し



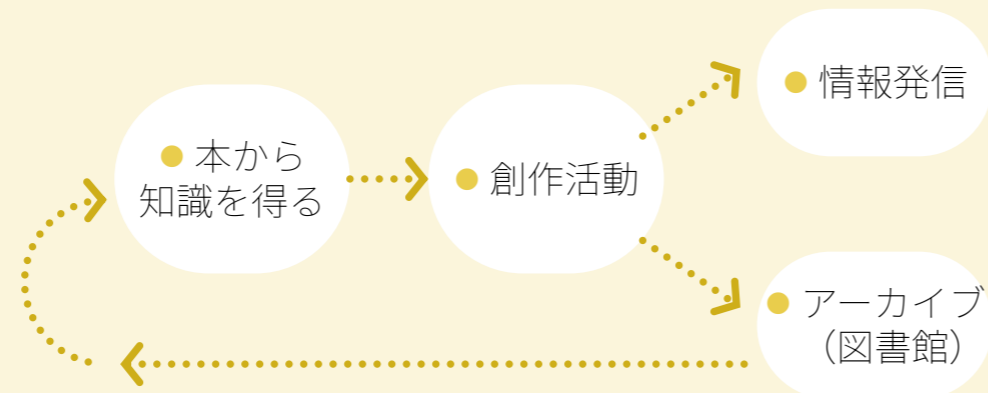
3 基本方針

■ 基本的な考え方

この施設が「わくわくする場」となり、それを持続させていくために、以下のような考え方を導入することとしました。

1

知と創造のサイクルが活動のスパイラルを



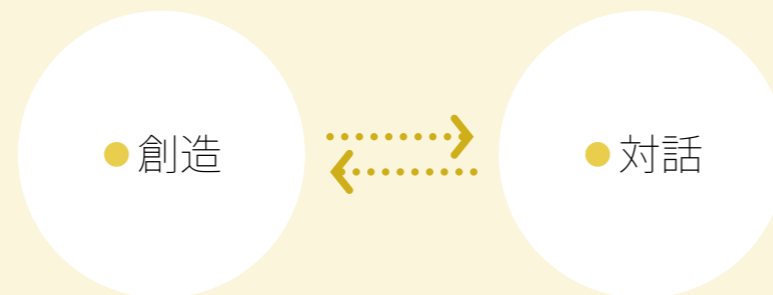
2

市民活動を活性化、継続する新たな要素



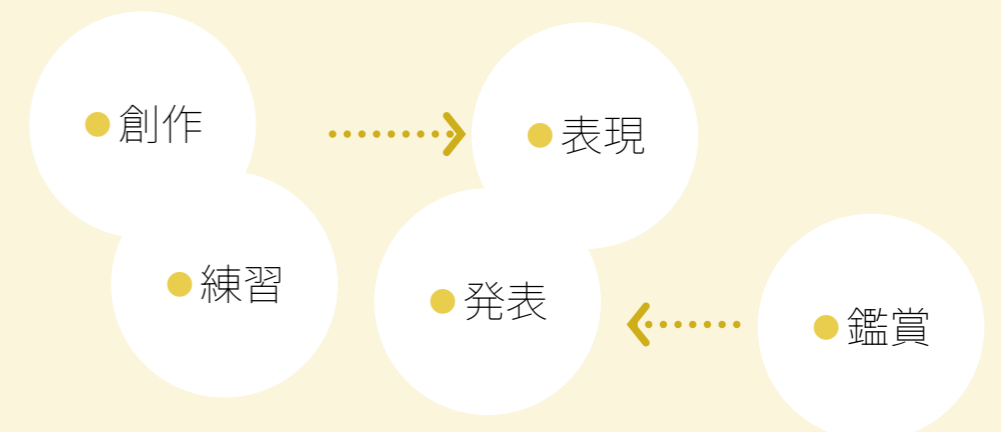
3

新しいコミュニケーションを生む場になる



4

シームレスな場が日常のアクティビティを

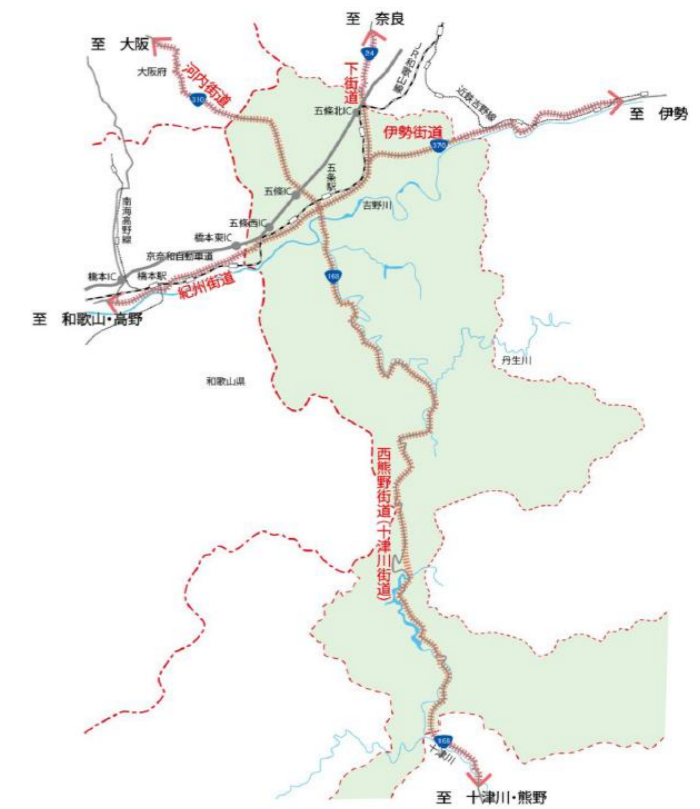
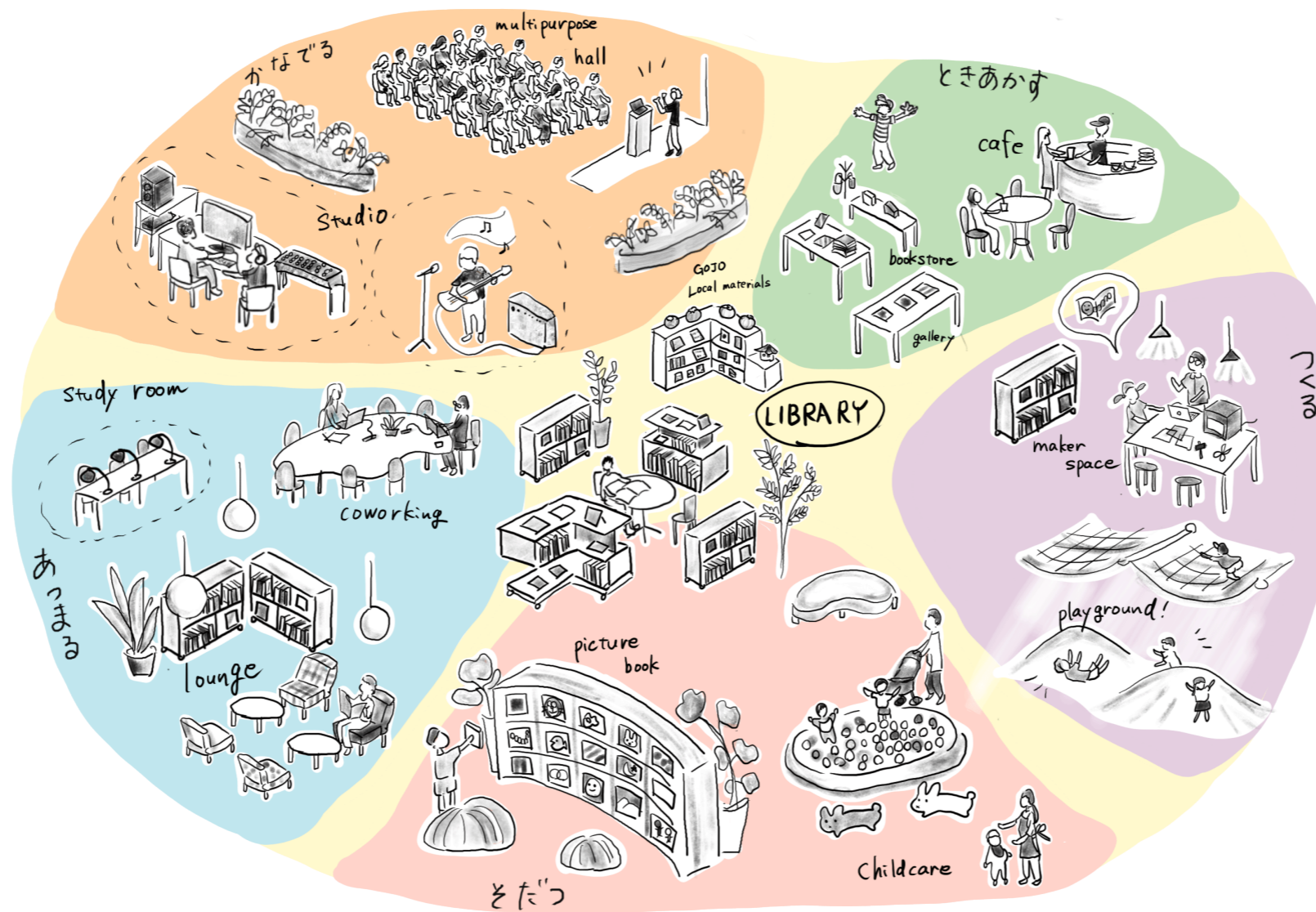


3 基本方針

これまでの検討から、ここで目指す公共施設の姿を以下のように定めます。

■ 基本計画コンセプト

図書館を中心につながる × 出会い、発見、創造が生まれる場所



出典：五條市ビジョン 図 交通の状況

■ 基本構成

図書館を中心に5つの活動のエリアを配置する

五條市の5つの街道になぞらえて、5つの活動エリアをゾーニングする。

3 基本方針

■ 導入機能の整理

ライブラリー

一般書コーナー
サイレントルーム
予約図書コーナー

5つのエリアに分類整理する

- 施設に導入する機能を5つの活動エリアに分類整理します。それぞれのエリアには、活動と結びついたテーマを与えます。

かなでる 新しいカルチャーを 生み出す	あつまる ゆるやかに活動する	そだつ 子どもも（親も） 楽しくなる	つくる 生活に創造が あふれ出る	ときあかす 大人になるための真実
GO！ホール (多目的ホール)	コネクトサロン	児童書コーナー	上々！工房 (ものづくり)	カフェ
クリエイターズ スタジオ	学習・コワーキング ラウンジ	子育て広場 (一時預かり)		BOOKS14歳 (ショップ)
	多目的室	GOJO Playground (子どもの屋内遊び場)		

5つのキーカラーを設定

- それぞれのエリアには五條ならではの要素を反映したキーカラーを設定します。
- キーカラーは、内装や家具などのアクセントカラーとしても用いてエリアの一体感が生まれるように工夫します。

 柿 照柿色	 吉野川 紺碧色	 あかね染 赤紅色	 桔梗 桔梗色	 金剛山 常盤色
--	---	--	--	---

4 デザインガイドライン

基本コンセプトを実現するための4つのデザインコンセプトを定めました。

■ デザインコンセプト

ひとつながりの開かれた施設・サービス

- 複数の機能がシームレスにつながり、利用するハードルを感じさせない
- 楽しく、遊び心があり、誰にでもフレンドリーな雰囲気づくり

大きな部屋、たくさんの居場所

- 開放的で大きな空間の中に、多様な居場所をつくる
- さまざまな活動をする人が、居心地がよく共存できる空間

いつもちょっと未完成、変化していく場所

- 可変性のある空間とし、市民の手で更新されていくことを許容する
- 毎回新しい発見があり、何度も訪れたい場所にする

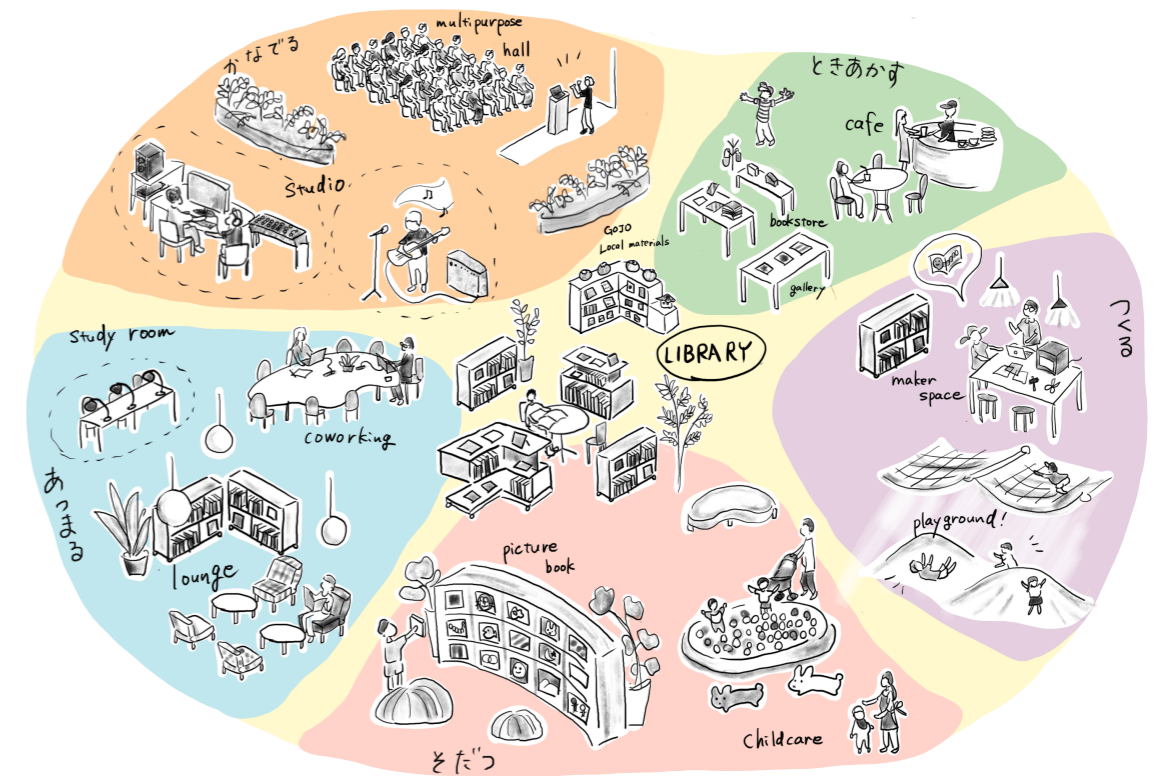
五條の価値を未来へつなぐ

- 五條ならではの要素を取り入れる
- 地域材や再生材料を積極的に使用して、サーキュラーエコノミーの実現に寄与する

■ デザインガイドラインとは？

施設とサービスのデザイン方針を定めます

デザインガイドラインは、目指す施設のイメージを具体化し、意思統一を図ることを目的としています。各エリアで提供するサービスやプログラムの検討、それを実現するための施設のレイアウト、家具什器の選定、サイン計画等の検討をするに当たり、全体に共通する方向性を指し示し、それぞれの計画に活かしていくための指針です。



図書館機能

- 資料の貸出や展示、レファレンスサービスなど、これまで図書館で提供してきたサービスを引き継ぎ、すべての市民に読書と学習の機会を提供するとともに、本の持つ力を最大限に生かし、施設内の様々な機能を結びつける媒介として機能します。
- 会話をしながら資料選びや読書を楽しめる、だれにでも開かれた明るい雰囲気の基本としながら、静かに落ちついて読書をしたい、集中して学習したいという人のためにはサイレントルームも用意し、静と動のゾーニングを適切に行います。
- 可動書架を積極的に採用し、可変性の高い書架空間を目指します。ある日は活動の空間に書架ごと出張し、ある日は戻ってくるというようなフレキシブルな運用により、思いがけない場所での本との出会いや、自由な発想での活動を誘発します。
- 書架は可動書架を含めて背の低いものを基本とし、安全性にも配慮した、ゆとりのある空間づくりを行います。
- 蔵書はICタグシステムでの管理とし、セルフ化による効率化と回遊性を実現します。
- 電子図書館や学校連携、こども園やイベントなどへの出張サービスにも引き続き取り組み、市内の様々な場所で気軽にサービスを受けられる機会を提供します。
- 五條ゆかりの人物に関する本、地域で生まれた独自の本も充実させていきます。

広場機能

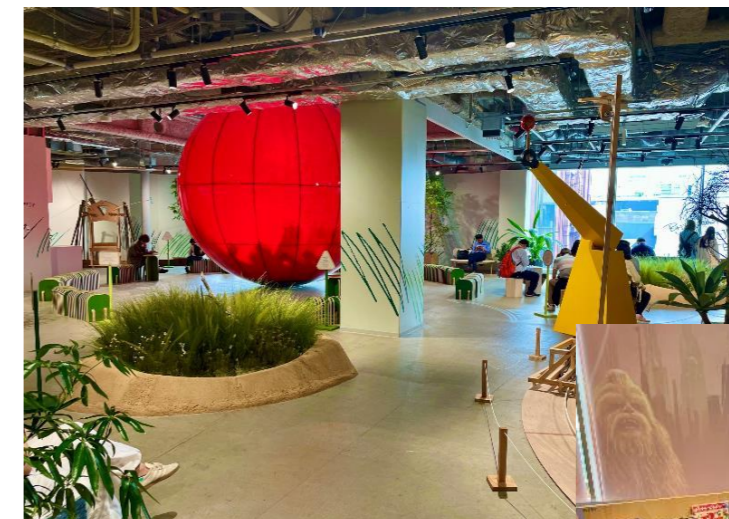
- 【施設全体】全体的に屋内広場のような設えとし、人々が思い思いの時間を過ごせる場所とすることで、開放感とシームレス感を実現し、自然に本を手に取りたくなる空間にしていきます。

蔵書目標

- 現図書館の蔵書は8万冊で、全国と同規模自治体と比較しても少なく、蔵書規模の拡大が必要です。ただし、新図書館では滞在型の利用を重視し、ライブラリー機能と5つの機能の連携や循環をうながすため、同規模自治体の中央値となる10万冊を目標値として設定し、蔵書の質を高めていくことを目指します。

	蔵書冊数 (冊)
五條市	82,621
同規模自治体の中央値	105,618

- 蔵書10万冊の内、70%にあたる7万冊を開架に配架し、効率的な収蔵のために3万冊分の閉架書庫を設置します。



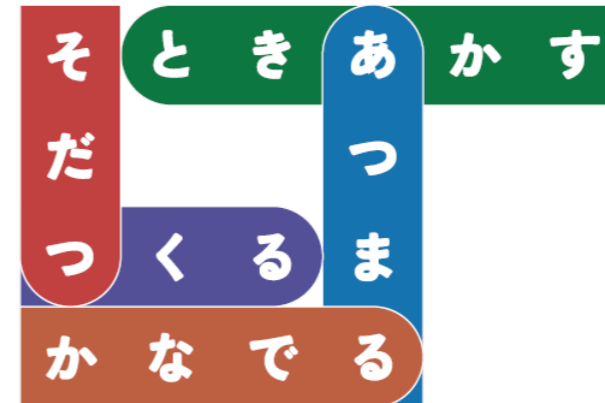
▲例) ハラカド ハラッパ
床、壁、天井仕上げはあえてむき出しとし、壁が一切ない空間に様々な形態のイスやインスタレーションが並ぶ。人々が公園のように、それぞれの時間を過ごすことができる屋内空間。



▲例) COVER 可動書架を使った雑誌図書館。
ある日はイベントスペースに変わる

配架計画

- ライブラリーエリアには一般図書を4.5万冊程度配架します。原則として、NDC（日本十進分類法）に沿ったわかりやすい順序で配架しますが、1万冊程度はテーマ別配架とし、キュレーションされた魅力的な棚づくりを行います。テーマは5つの活動エリアに結び付く内容とすることで、ライブラリーエリアを媒介として、施設内の様々な機能を緩やかにつなぎます。
- 児童書は2.5万冊程度を開架に配架することとし、配架内容の詳細は「そだつ」の児童書コーナーで整理します。



あおぞらとしょかんの実施

- 試験的な取り組みとして、市主催のイベント「水辺でチルしよ」、「にぎわいフェス」の中であおぞらとしょかんを開催しました。
- 5つのテーマに合わせた本を20冊ずつ選書して提供し、ハンモックやタープを設置して、屋外で自由に本を読める環境を整備しました。



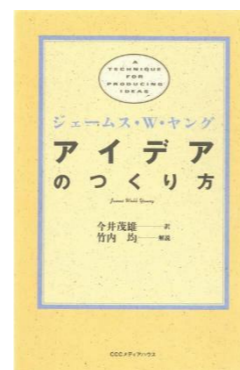
各テーマ別の一例

かなでる

新しいカルチャー
を生み出すおんがくのはたらき
／デヴィッド・バーン

あつまる

ゆるやかに活動する

アイデアの作り方
／ジェームス・W・ヤング

そだつ

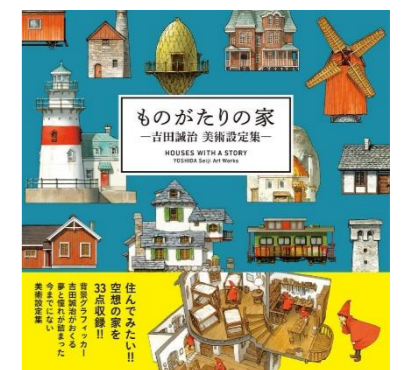
子どもも（親も）
楽しくなる翻訳できない世界のことば
／エラ・フランシス・サンダース

つくる

生活に創造が
あふれ出る木をかこう
／ブルーの・ムナリー

ときあかす

大人になるための真実

ものがたりの家—吉田誠治 美術設定集—
／吉田誠治

GO！ホール（多目的ホール）

- 施設内で得た知識やそれによって生まれた活動を発表する場となり、知と創造と表現の循環を生み出します。さらに、特別な日の発表や鑑賞の場としてだけでなく、日常的な活動や交流、実験の場として開くことで、「文化がうまれるホール」を目指します。
- ホールでは、ピアノの発表会や吹奏楽などの音楽イベントが開催可能なほか、ダンスの発表や展示会やマルシェなどのイベントにも使用できる設えとします。
- 座席やステージは固定せず、使用目的によって形を変えられる、変化ができる場所にします。

<特徴1>図書館として開放可能に



壁の一部がオープンになり、外部と一体的に活用できる。2重壁で防音性能を確保。（四十市りぐるホール）



ホール利用がない場合は開放して図書館として利用（アメリカコネチカット州ウエストポート図書館）

<特徴2>移動式観覧席で平床利用可能に



↑ イベントの内容に応じて平床でも使用可能。（海南市 海南ノビノス）



<特徴3>移動式ステージで様々な舞台形状に



移動式ステージにより様々な形状に変更可能。ダンスなどアクティブなイベントにも対応。（↑調布市むらさきホール！奈良県コンベンションセンター）



移動式ステージ（1枚約2m×1mを自由に組み合わせ可能）
高さは20cm～100cmまで調整可能。

クリエイターズスタジオ

- 若者たちのクリエイティブな活動が支援できる音楽スタジオ、編集スタジオを整備します。
- 音楽スタジオはバンド練習や個人での楽器練習などができるしつらえとし、ドラムやアンプなどの機材を標準で設置します。
- 編集スタジオには、音楽・動画編集、イラスト作成ができるPC等の機材を設置します。
- 各スタジオ近くには創作にひらめきを与える本を配架します。



| 前室として打合せ・交流スペースも設置

今回目指すホールの在り方

- ホールとして求められる機能を担保しながら、出来るだけオープンなつくりとし、スタジオとの連携によって、普段から多様なアクティビティが生まれる空間を目指します。
- 催しのない時でもアクティブに活用される空間を目指し、普段は「開いている」空間として使われ、イベント時には「閉じることができる」設えを備えるものとします。
- 防音性を確保しながら、ホールの壁の一面を開閉可能とすることで、ホールの中と外をシームレスにつなぎます。

参考事例：Westport Library (アメリカコネチカット州)

図書館を改修した際に、二層吹抜け空間の閲覧室をForumと呼ばれるフレキシブルな空間として整備。普段は図書館の一部として開放されているが、可動家具を動かしてイベントにも使用できる。音響・照明設備も備えており、Verso Festというイベントを毎年開催している。



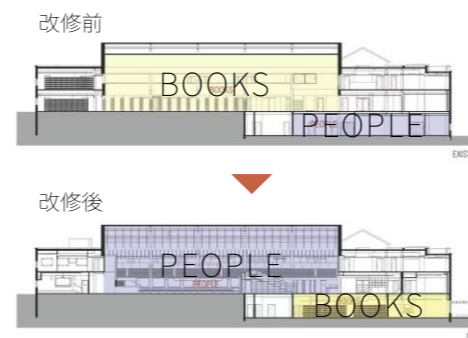
上階から見下ろせる構成



音楽イベントの様子



吹抜け空間の中にカウンターと階段状の閲覧席

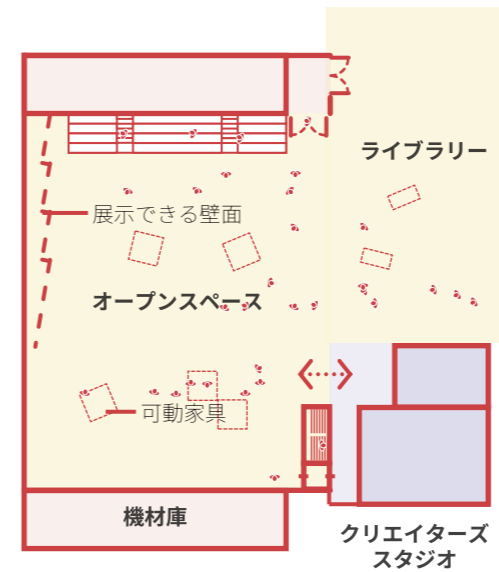


レイアウトイメージ

[平常時]

開いている

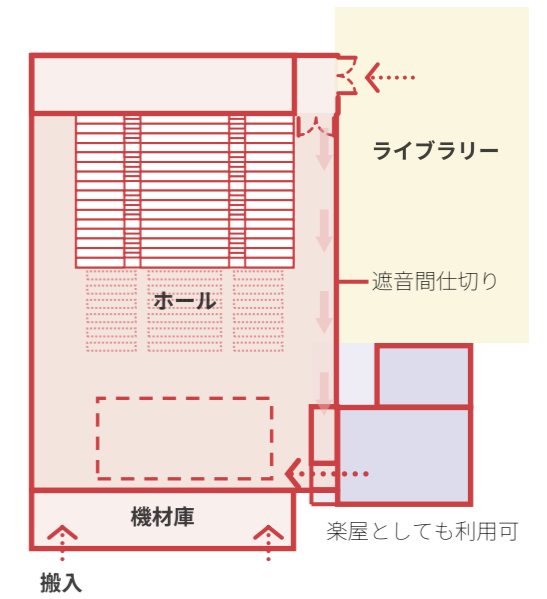
- 普段はライブラリーと一体となったオープンな空間



[イベント利用時]

閉じることができる

- 遮音間仕切りによって、閉じられたホールを形成する

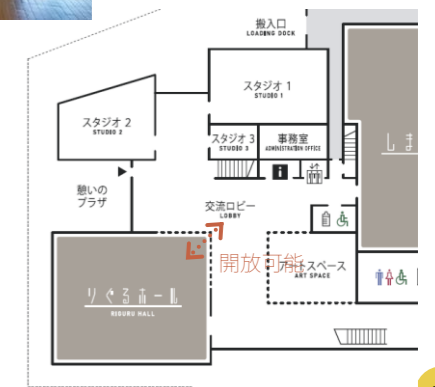
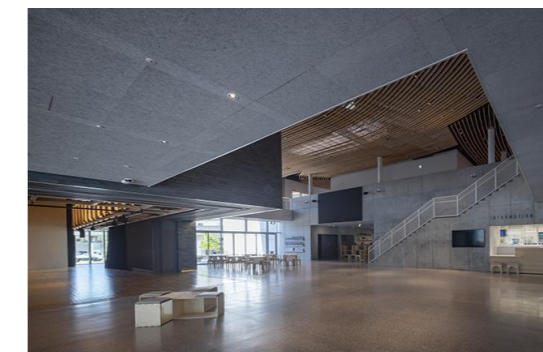


参考事例：しまんとぴありぐるホール (四万十市)

共用空間としての市民の日常利用から、小公演やイベントまで、多様な演出が可能な拡張性を備える。四万十市産材を用い、木に包まれた温もりを感じる空間が特徴的。コーナー部を開け放しておくことで交流ロビーとシームレスにつながる。定員：360名（椅子のみの利用の場合）

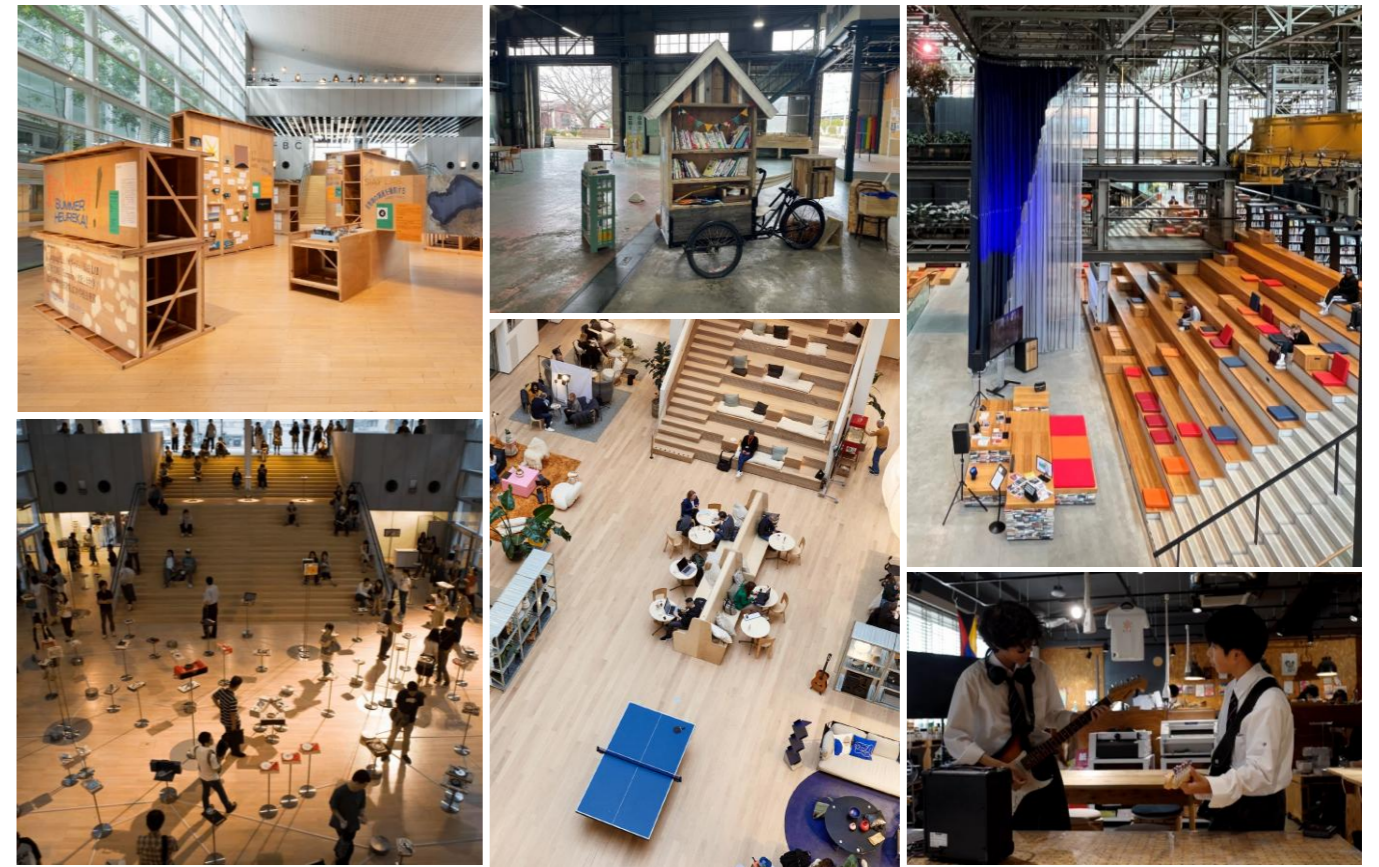


コーナー部を開放した状態



どうしたら日常的にアクティビティを生み出せるか？

- 階段状の座席を設置して、イベントがない時でも市民が日常的に座って過ごすことができるようにします。また、可動の書架や家具を活用して常に変化のある場としていきます。他にも日常的に展示できる壁面や什器を用意することで、さまざまな用途に活用される空間としていきます。
- イベント等、特定の目的利用がない時間帯はホールを開放し、日常的に利用できる場所とします。
- ホール担当の職員がホール利用に関する相談等に応じるほか、ホール利用のない時間帯を活用して、誰でも気軽に音楽や創造活動に触れられるアクティビティを提供します。図書館とホールを一体にしたオープンなスペースで、日々の何気ない活動や交流から、新たな交流や活動が生まれ、五條にしかない「新しい文化」が生まれる仕掛けをつくります。



中高生ワークショップの実施

- ホールやスタジオを日常的に活用する担い手として、五條高校、西吉野農業高校、智弁学園の音楽系の部活の生徒たちに声を掛け、どんな施設だと使いたいか、どんな要素を追加して欲しいか、などのヒアリングを行いました。
- 当日はミュージシャンのトクマルシューゴさんをアドバイザーに迎え、活発に意見が交わされました。



ミュージシャン

トクマルシューゴ氏

ギターと玩具を主軸に無数の楽器を演奏する音楽家。楽曲の全てを作詞・作曲、演奏、アレンジ、レコーディング、ミキシングまでひとりで手掛ける。作品制作・ライブ活動の他に企業CMや映画、アニメ音楽など多岐に渡り活躍している。



五條に帰ってくる理由ができた

若者が集まれるところに

ドラムがあるスタジオが欲しい

楽器の貸し出しをしてほしい

無料でライブできる場所がほしい

修理ができる道具や場所があるといい

※代表的な意見の例

学習・コワーキングラウンジ

- 学習したい市民や働く人の支えとなるように、学習・コワーキングラウンジを整備します。一般的な学習席だけでなく、リラックスして仕事をしたり、グループで交流や学び合いがしやすいラウンジ空間として設えます。
- 「働くこと」に関するセミナー等を開催。事業立ち上げに関するアドバイス等を提供できるコーディネーターの配置も検討します。

多目的室

- 打合せや教室など、市民の様々な活動をサポートすることができる多目的室を整備します。ダンスやヨガ教室、身体を動かすイベントなどアクティブな用途にも活用できます。
- 市民の交流の場として、市民企画講座、共通の趣味を持った人同士の意見交換や交流会を開催するなど、施設側からの提供だけでなく、市民の「学びあい」を創出する場にしていきます。

コネクトサロン

- コネクトサロンは商業施設側の共用部に設置し、商業施設とつながる市民の交流の場になります。
- 図書館で管理する雑誌や新聞を設置し、日常的なくつろぎの空間として機能します。商業施設でテイクアウトした食品の持ち込みも可能です。オープンな空間でありながら、展示やイベントを行うことも可能な設えとし、市民の興味を引き付ける効果も発揮します。



|大きな共用テーブル



|グループで使える座席



|カジュアルに利用できるスペース

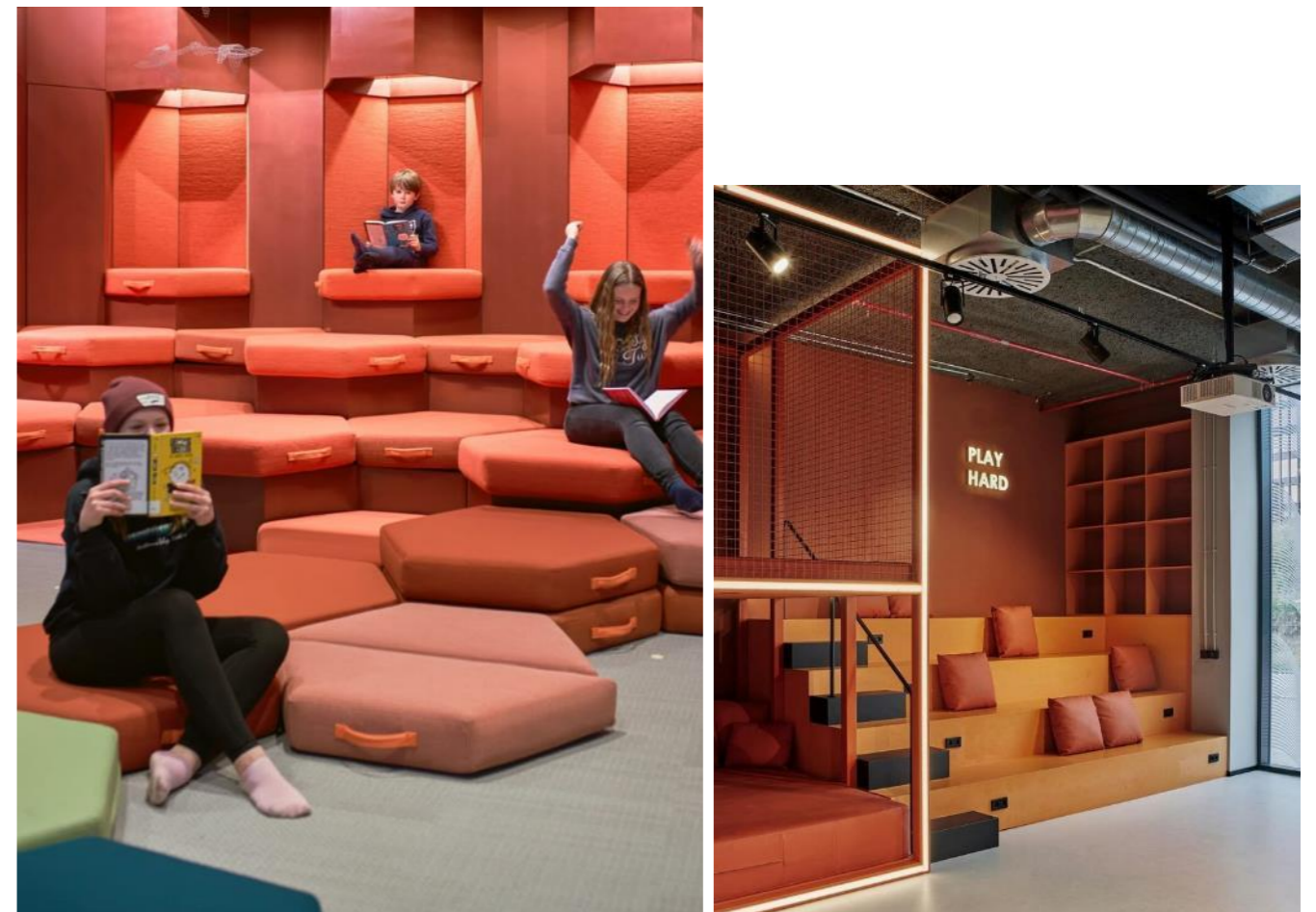
児童書コーナー

- 子どもたちがのびのびと楽しく過ごし、繰り返し来たくなる児童書コーナーを設けます。
- 子どもが本と親しめるよう、子どもや親子を対象としたイベントや展示等を企画します。また、遊び心のある家具を取り入れて空間の魅力を高め、ソフト・ハードの両面から子どもの好奇心を刺激します。
- 絵本に囲まれた「おはなしコーナー」も設置し、ボランティアとも連携を取りながら、おはなし会などの定期的なイベントを実施します。
- NDCに沿った基本的な配架だけでなく、本の魅力を伝えるテーマ配架や、表紙を見せた本の陳列を導入します。
- 大人が読んでも面白い本、ビジュアルに魅力のある本など、本の対象年齢に限らず、子どもの自由な感性で本に触れられる機会を提供します。



子育て広場（一時預かり）

- 子育て支援センター「はっぴい」の一部機能を引き継ぎ、一時預かりを行う子育て広場を設けます。商業施設側とも連携し、相互利用を促します。
- 乳幼児向けの遊び場、遊具、知育玩具を整備し、隣接する絵本コーナーを生かした読み聞かせなども実施します。



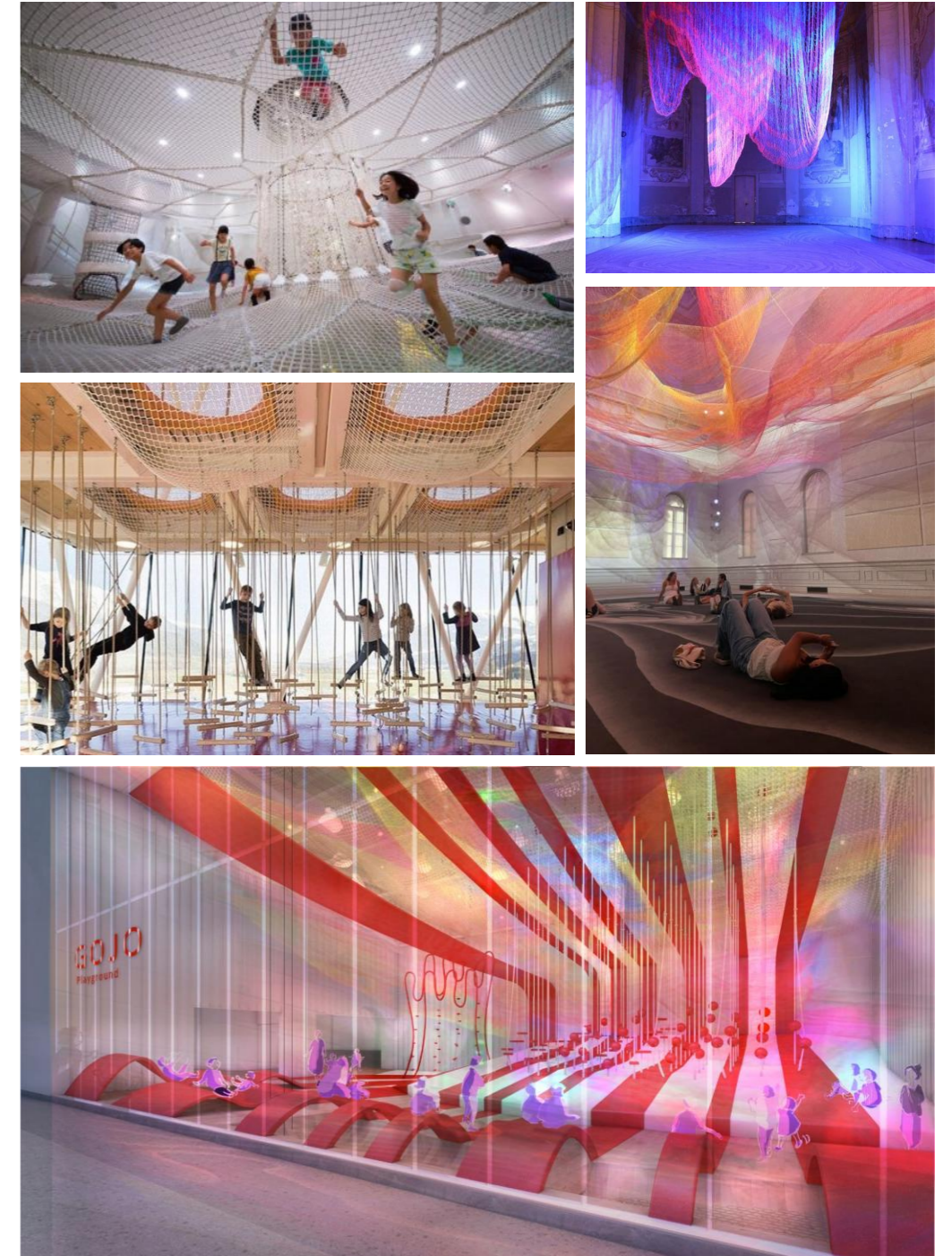
GOJO Playground (子どもの屋内遊び場)

- 全天候型の屋内遊具として開放的で高さがあり、子どもたちが身体を動かして自由に遊べる空間を整備します。子どもたちが自由に遊び方を発見し、好奇心と創造が芽生える遊び場を目指します。
- 基本的に対象は小学生までですが、見守りスペースを設けて親世代も訪れやすく、多世代の憩いの場となる施設にします。
- 乳幼児コーナーには吉野杉など地場木材を使用し、木の香りや手触りを通じて木育を促進します。地域とのつながりを感じてもらい、子どもたちの感性や創造力を豊かにすることにつながります。
- 夜間は白いネット面に照明演出をするなど、施設の雰囲気を変えて楽しめるようにすることも検討します。

| 基本計画段階での構成イメージ



- 赤白のボーダー柄は、五條市出身の偉大なマンガ家・芸術家である椋岡かずお先生のトレードマークに因んでおり、子どもたちに元気と想像力を与えます。



| 夜の演出イメージ

上々！工房（ものづくり）

- 手を動かしてもものづくりを行う道具や工具のほか、3Dプリンターなどの様々なデジタル機器も設置し、子どもも、大人も、自由に好奇心や興味を形にできる場所とプログラムを提供します。創造のヒントとなるような様々な資料も設置します。
- デジタル機器等の操作をサポートする職員が常駐し、利用者が安全に機器を操作できるよう支援します。また、初めてデジタル機器に触れる人向けの講習や体験会なども開催します。
- ここでの活動の成果もアーカイブしていくことで、市民自らがつくるコンテンツを持つ新しい図書館の形を目指します。例えば、子どもと大人が作家・編集者のコンビとなってつくりあげる絵本出版プロジェクト等を実施し、絵本は図書館の蔵書とすることで、新たな五條独自の文化の蓄積となるほか、書店でもここでしか買えない本として販売することができます。



カフェ

- オープンな空間の中に本を持ち込んで読書もできるカフェスペースを設けます。設えの美しさや、ただコーヒーを提供するだけでなく、にぎわいが生まれるコミュニティの場、市民の憩いの場とします。



BOOKS14歳（ショップ）

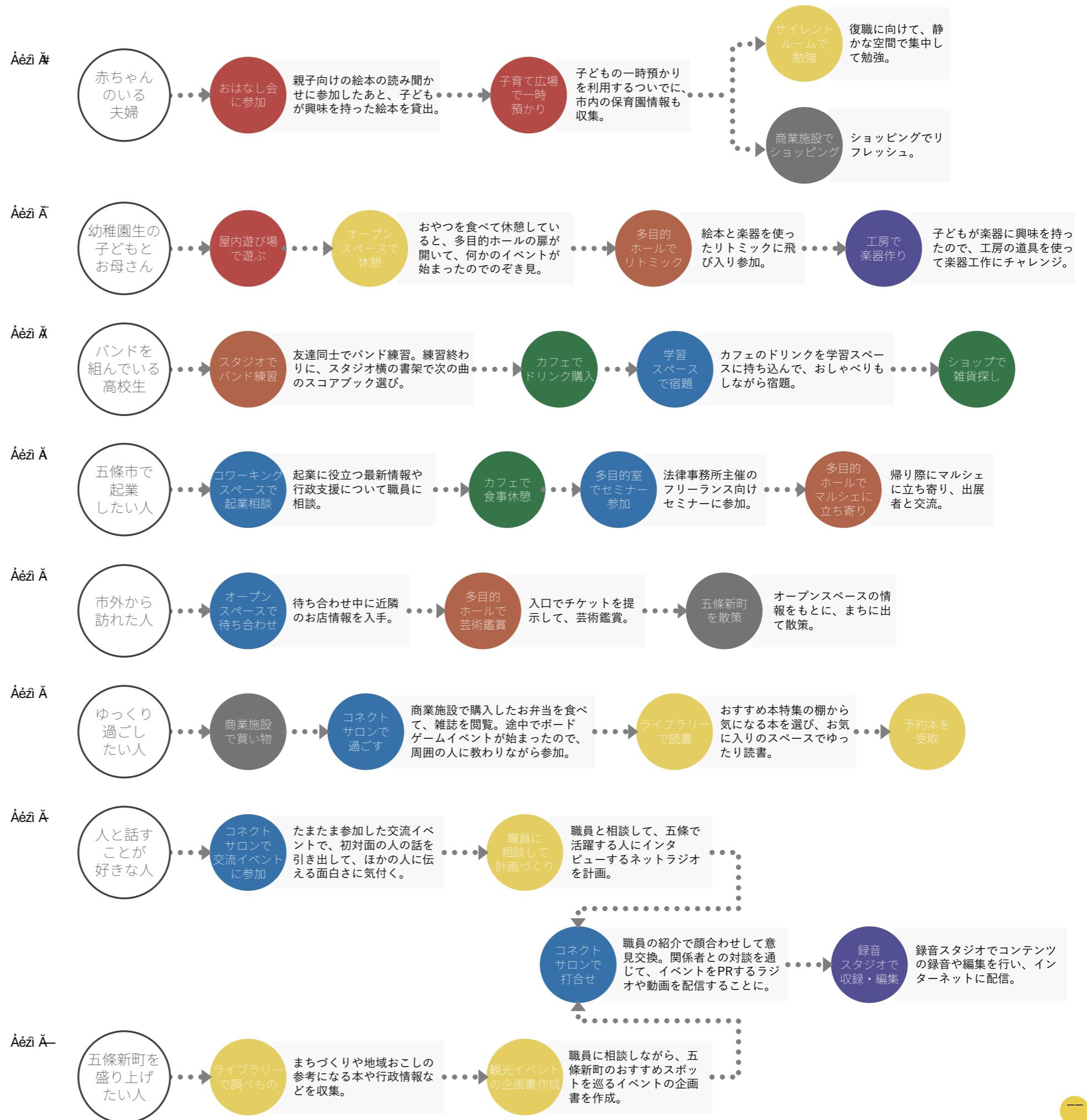
- セレクトされた本を販売する小型の書店コーナーで、日用品や文具・雑貨などの販売も想定しています。
- 店名である「14歳」は仮称ですが、五條市出身の楳図かずお先生の作品名にちなんでいます。楳図先生が10代のころ、五條恵美須神社の夏祭りで手塚治虫の「新宝島」に出会い漫画家を目指したというエピソードのように、若い世代にも本を手にとってもらい、将来につながる発見や出会いを提供することをコンセプトにしています。
- 販売する書籍の流通は市内の書店との連携も検討します。ほかにも館内での活動により作成され、商品化されたものなども販売を検討します。



4 デザインガイドライン

機能融合することで生まれる新たなサービス

- 機能別の独立したサービスだけでなく、様々な機能が融合する本施設の特徴を生かした新しいサービスの創出にも取り組みます。複数機能を活用する一連のイベントを開催したり、本や機材・設備などを別の機能の中に出張させ、相乗効果を図ったりと、本施設全体が一体となり、機能をまたいだ様々なアクティビティを計画します。
- 親子連れや中高生、五條のまちで働く人、これから起業をしたい人、長年五條で暮らしてきたお年寄りなど、様々な属性の人が本施設でどう過ごすかをシミュレーションし、利用者の行動パターンに寄り添うサービスの提供に加えて、思いがけないアクティビティとの出会いも仕掛けます。

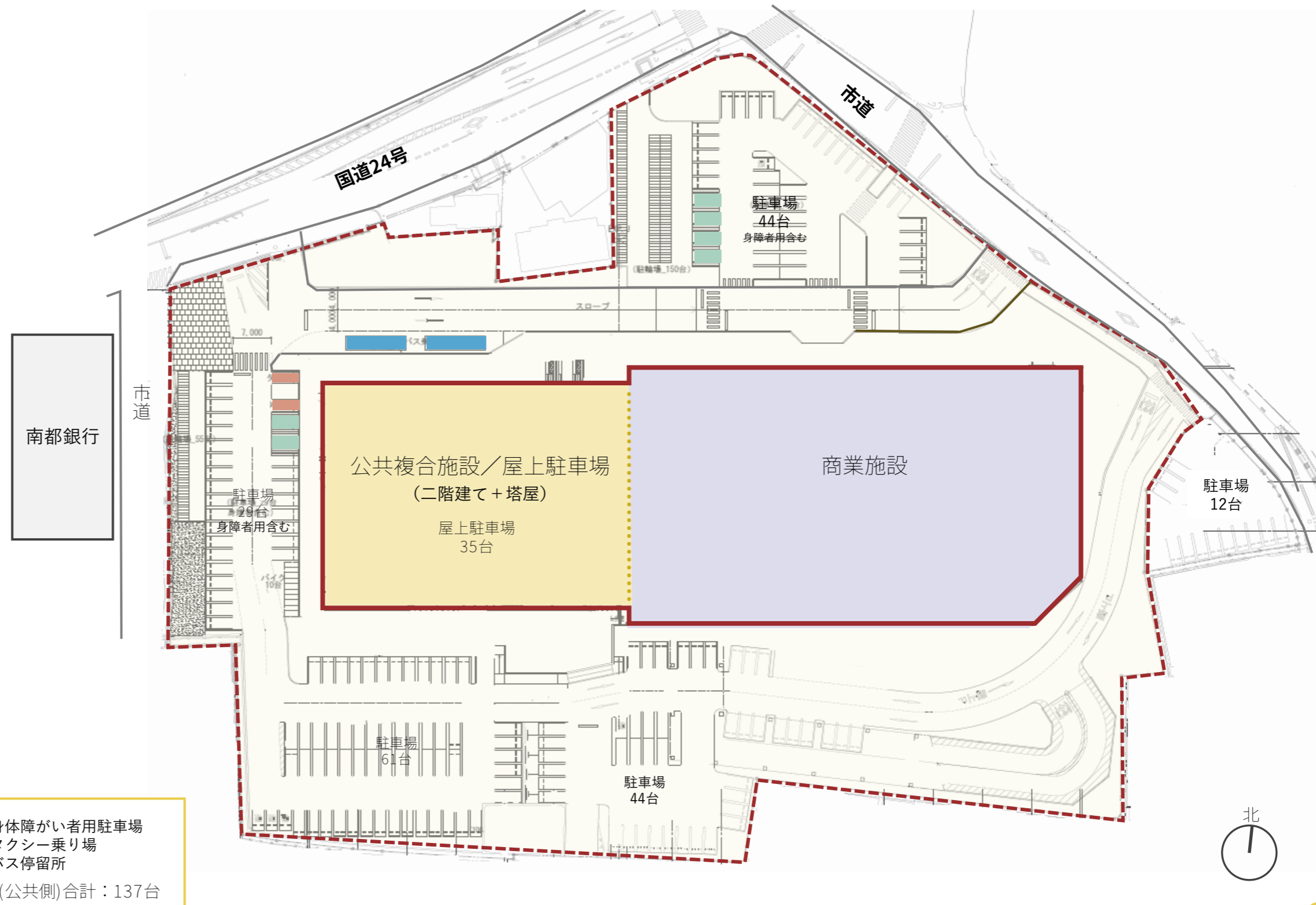


5 建物配置計画

配棟計画

商業施設との相乗効果を発揮する配置

- 公共複合施設は2階建てで、商業施設に隣接して計画します。相互利用を促し、最大限に利便性を高める配置とします。

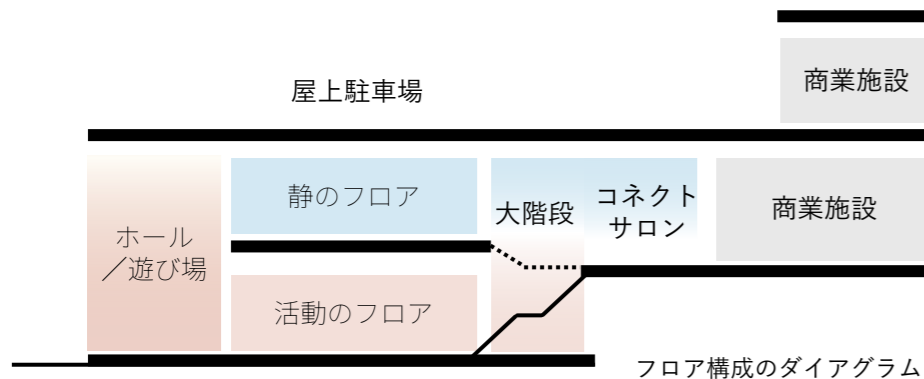


5 建物配置計画

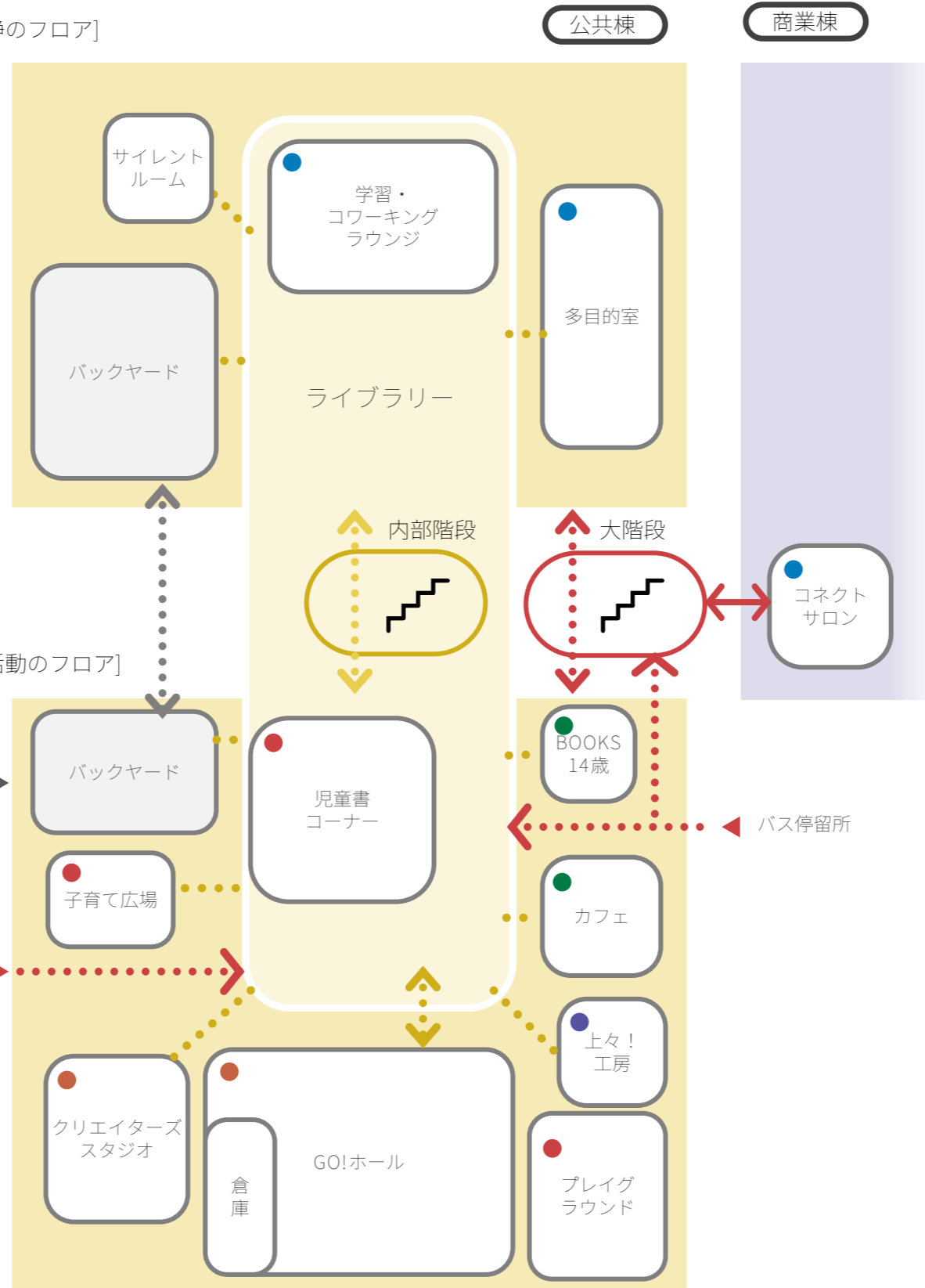
機能相関図

- 2つのフロアを、活動的なフロアと比較的落ち着いたフロアに分けて、それぞれの機能を配置します。フロアの中にはライブラリーがあり、そこからさまざまな活動の場へ広がっていきます。上下階のライブラリーは中央の階段で連絡します。

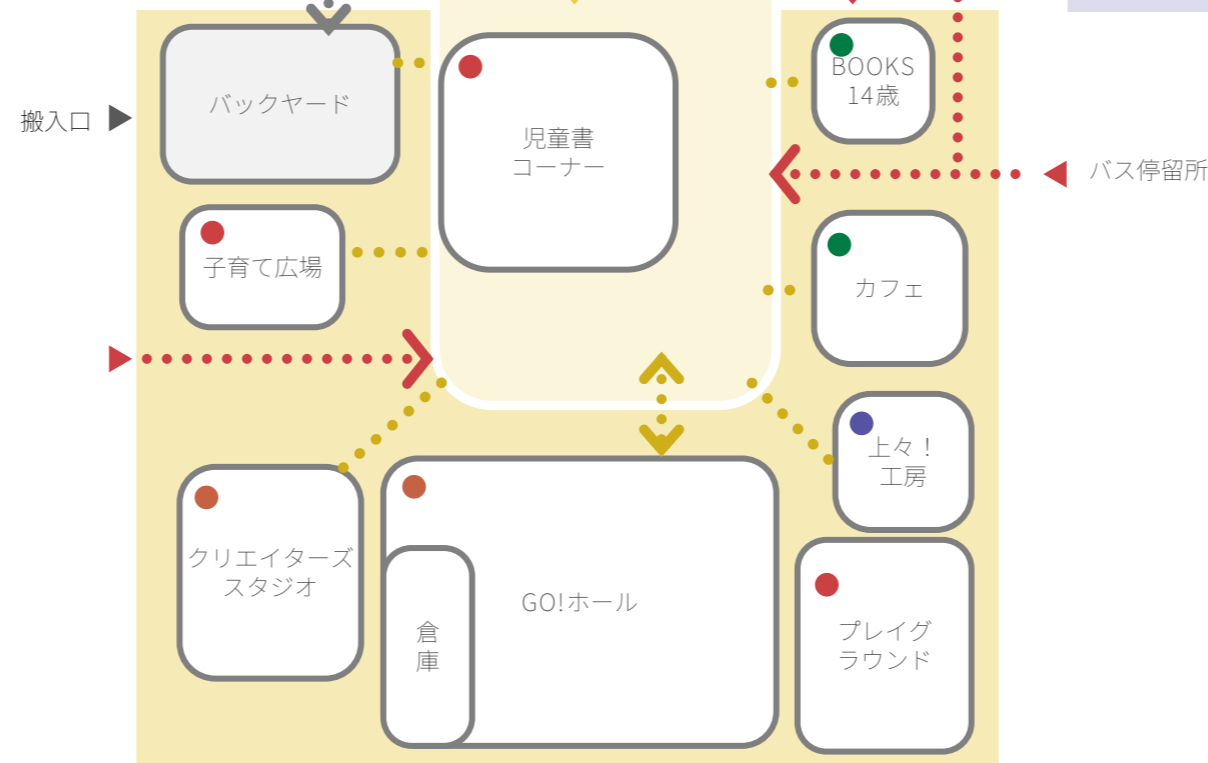
- 敷地の東西で土地のレベル差があるため、公共棟の上下階の中間に位置する高さで商業棟と接続するような断面計画とります。隣接する商業棟に向けて北側に大階段を設け、商業棟側に設置されるコネクサロンと合わせて相互のつながりをデザインします。



2F [静のフロア]



1F [活動のフロア]



面積表

※基本計画段階での想定

2F

機能分類	室名	目安面積
ライブラリー	一般書コーナー	580
	サイレントルーム	50
あつまる	コネクサロン	-
	学習・コワーキングラウンジ	260
	多目的室1	30
	多目的室2	20
	多目的室3	20
	多目的室4	20
バックヤード	倉庫・流しコーナー	10
	事務室・作業スペース	120
	閉架書庫	60
共用部	更衣室	20
	WC	40
	階段・廊下・EV・機械室	220
		(㎡)

1F

機能分類	室名	目安面積
ライブラリー	オープンスペース	340
そだつ	児童書コーナー	300
	授乳室・おむつ交換室・こどもトイレ	20
	遊戯室	215
	子育て広場	80
かなでる	多目的ホール	600
	スタジオ1	45
	スタジオ2	20
	録音・編集室	10
	スタジオ前室	30
ときあかす	カフェ	115
つくる	ブックショップ	35
バックヤード	工房	100
	事務室・作業スペース	110
共用部	ごみ置き場	5
	WC・HWC	75
	階段・廊下・EV・機械室	250
		(㎡)

延べ面積：3,800㎡程度

5 建物配置計画

1階ゾーニングプラン [活動のフロア]

公共複合施設 ←→ 商業施設



- 3Dプリンターなどのデジタル機器やアナログ工具等を備えたモノづくりの場
- 子どもも、大人も、自由に好奇心や興味を形にできる工房

バス乗り場

- 読書もできるカフェエリア
- にぎわいが生まれるコミュニティの場、市民の憩いの場

つくる

ときあかす

- 天候に関わらず子どもたちが体を動かして自由に遊べる施設。
- 子育て世代も訪れやすい環境づくり。

GOJO Playground
(子どもの屋内遊び場)

上々！工房
(ものづくり)

カフェ

BOOKS
14歳
(ショップ)

- セレクトした本を販売する小型の書店。雑貨なども販売。
- 発見や出会いが生まれる商品を並べる。

- 発表や鑑賞の場だけではなく、出会いや文化が生まれる場を目指す。
- マルシェや物産展など、多くの人にぎわう多目的でオープンな場所に。
- 図書館の知識が活動につながるように、日常は図書館のオープンスペースとして活用。
- 音響、照明、遮音性能を確保してイベント利用に対応。

GO! ホール
(多目的ホール)

ライブラリー
(オープンスペース)

子育て
広場
(一時預かり)

- 一時預かりを行う子育て広場。
- 子育て世代への情報提供や教室なども検討。

仮設ステージ

スタジオ

児童書
コーナー

管理エリア

- 全体的に屋内広場のような設えとし、人々が思い思いの時間を過ごせる場所とすることで、開放感とシームレス感を実現し、自然に本を手にとりたくなる空間にしていきます。

かなでる

そだつ

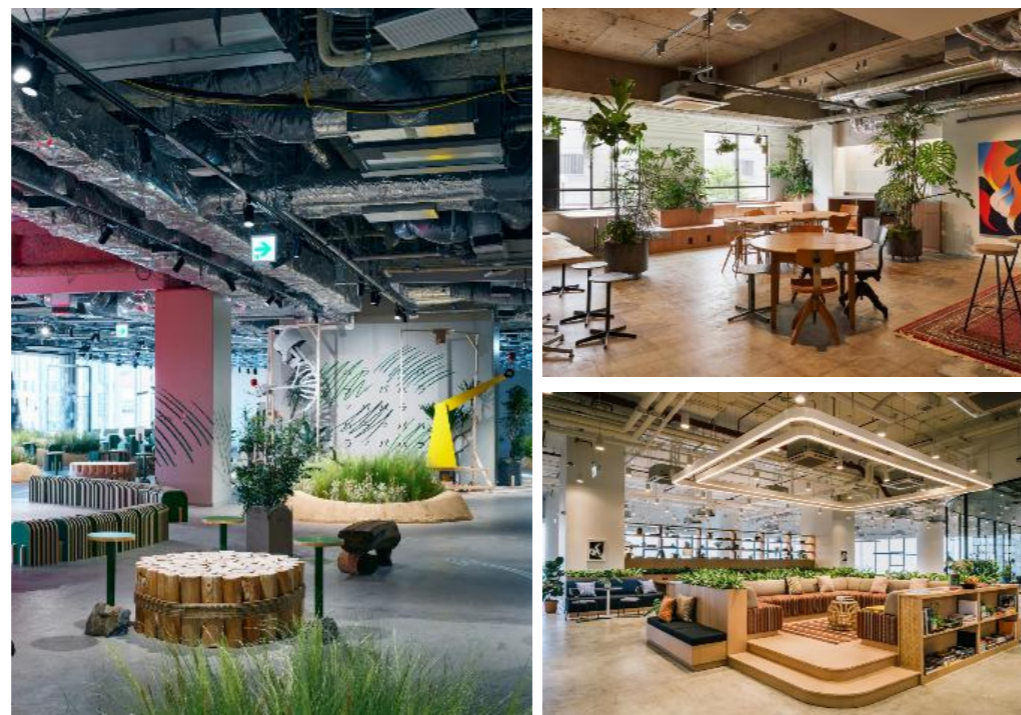
- バンドの練習や楽器演奏ができる音楽スタジオ。
- ドラムやアンプなどの機材は標準で設置。

6 施設のデザイン方針

空間の在り方

編集していく余白のある空間

- メインとなる空間は天井を張らずに、極力簡素な仕上げとすることでコストを抑えながら、メンテナンス性と、空間の可変性を高めます。照明もライティングレールを利用し、必要に応じて配置変更ができる仕様とします。
- 開放感を持たせることで施設を身近に感じ、活動に関与するハードルを感じないような雰囲気をつくります。また時間の経過とともに編集されていき、訪れるたびに新しい気付きや発見がある空間を目指しています。



いろいろな向き、いろいろな高さの居場所をつくる

- 多くの人が居心地よく過ごせる居場所を生み出すために、画一的な配置はせずいろいろな向きや高さの違いがある設計とします。
- 本を読む行為だけでも座ったり、寝そべったりいろいろな姿勢で思い思いに過ごせる場所をつくります。

開く、つながる

- 施設全体が基本的にひとつながりで、異なる機能エリアとの間で行き来するバリアをつくらない施設とする。
- 音や視線などの観点から間仕切りを設ける必要がある場合は、ガラスなど透過性のある素材、スライディングウォールやカーテンなど仕切り方を変えられる仕様とするなど、目的に応じて選定し、できるだけ空間の連動性を高める設えとする。

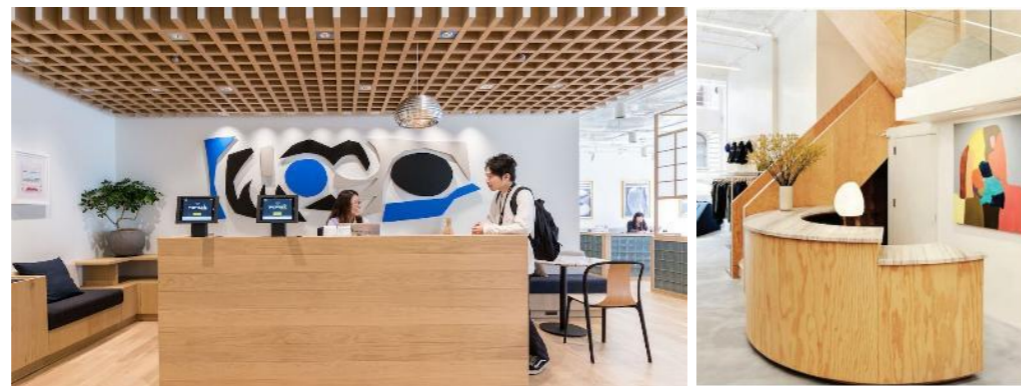


6 施設のデザイン方針

家具・什器

集約されたサービスカウンター

- 図書館サービスはICタグの導入により、利用者自身での貸出・返却を想定しているため、サービスカウンターは従来の図書館サービスだけでなく、施設内のサービス全体の窓口を集約して、利用者との接点となる役割を持たせます。
- カウンターの脇にテーブルセットを設けることで、利用者の相談事などがある場合はそちらに移動して対応するなど、コミュニケーションを図りやすい設えとします。



ユニット化された家具・動かせる家具

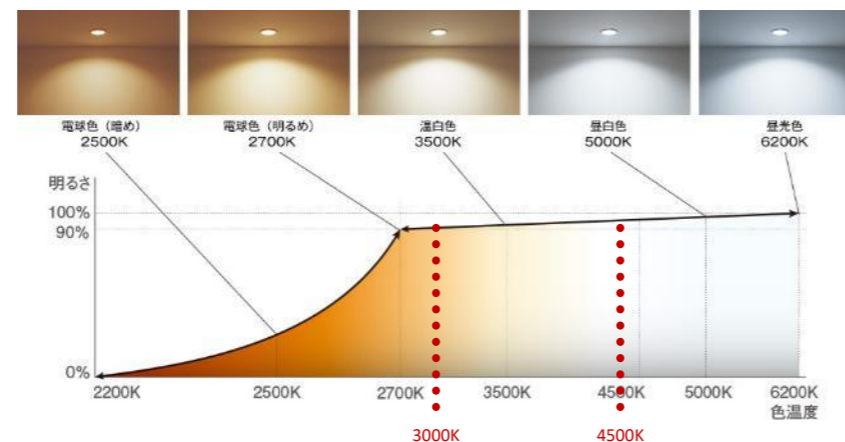
- 空間の可変性を高めるため、書架や大型家具は可動式とし、また一定のモジュールでユニット化することで必要に応じて組合せを変えて使うことを可能にします。



機能面での配慮

タスク・アンビエント照明の導入

- 照明計画においては、本を読む場所、作業をする場所で求められるタスク照明と、空間全体の雰囲気をつくるアンビエント照明を分けて考える、タスク・アンビエント照明の考え方を採用します。
- タスク照明は比較的色彩温度の大きい設定とする一方、アンビエント照明は低い色温度として照度を抑えることで省エネ効果もあるため、調光が可能な仕様とします。



吸音性能の確保

- さまざまな活動が同居する開放的な空間を可能にするため、各所で吸音性能を確保することが重要となります。
- 木毛セメント板や、フェルト、ファブリック素材を使用した壁材や、吊り下げ式の吸音材、吸音パーティションなどを場所により使い分けます。



蔵書管理の考え方

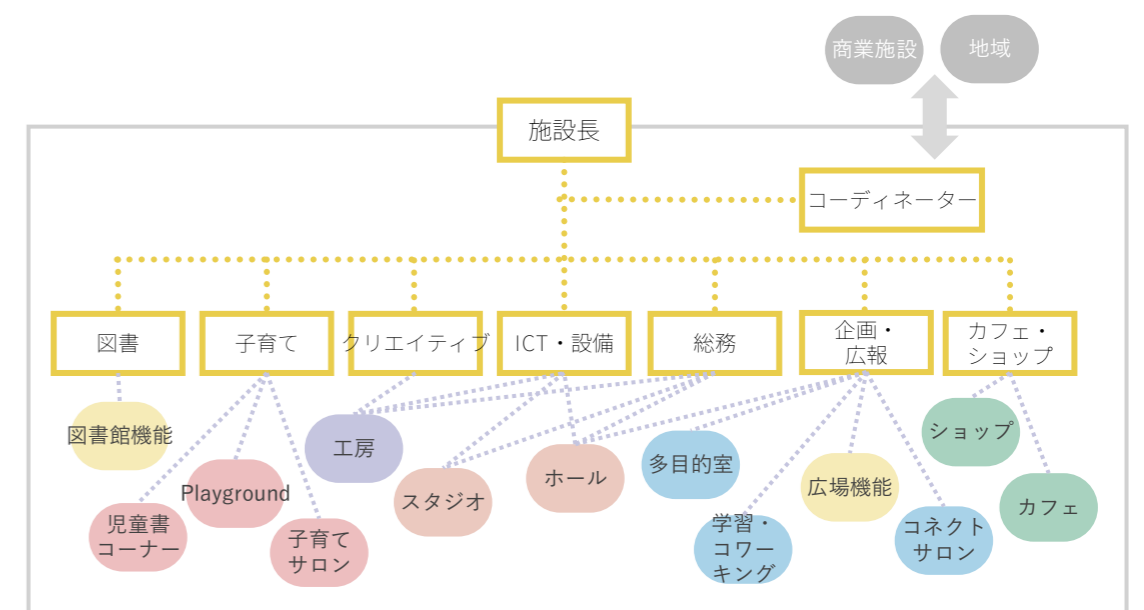
- 蔵書の効率的かつ確実な管理と、利用者の利便性向上の観点から、本施設ではICタグシステムによる蔵書管理を行います。自動貸出機・返却機の導入により、利用者によるセルフ貸出・返却が可能な環境を整えます。

諸室管理の考え方

- GO!ホール及びクリエイターズスタジオは、時間区分による有料での貸室事業を行います。料金体系や予約方法の設定に当たっては、市民と市外利用者との間に価格差を設けるなど、市民が気軽に施設を利用できるように配慮しつつ、市外からのニーズにも柔軟に応える仕組みを検討します。また、中高生の活発な利用を促すための制度も検討します。
- 上々！工房は、様々な機材を個別に利用できるようにするため、機材ごとに予約を受け付ける方式とします。気軽に創作活動や試作に取り組めるようにするため、機材自体の利用料は設けず、消費した材料に応じた価格を利用料として徴収する形を想定します。
- GOJO Playgroundは無料を想定します。

運営体制及び運営手法

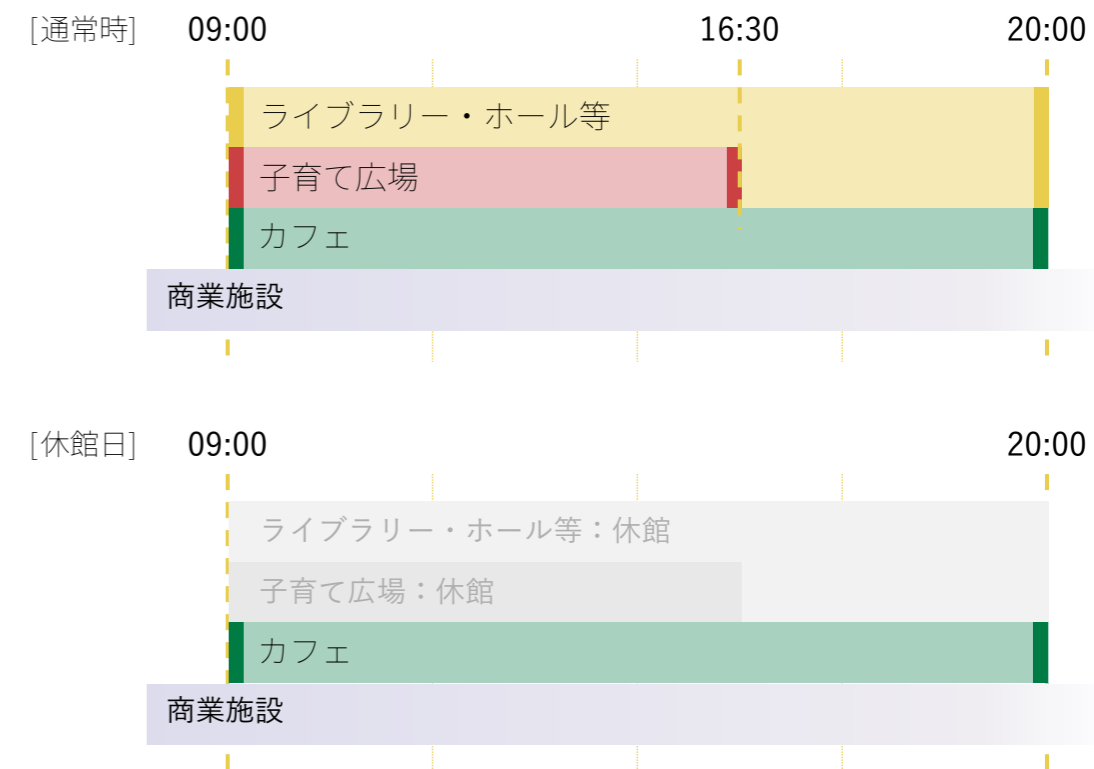
- 本施設では、単純な機能間連携にとどまらず、機能同士をオーバーラップさせながら様々な活動に取り組むことで、人と人との交流を生み、新たな人を呼び込み、まちのにぎわいへとつなぐことが可能となります。そのためには、運営体制においても各機能を独立させず、機能横断的に事業に取り組みやすいよう、施設全体を一体的に運営する必要があります。
- 本施設の運営者には、各機能に対する専門的な知識やスキルが必要なほか、それらを掛け合わせて新たな活動を生み出す企画力や、市民・地域と積極的に交流し、コミュニティ形成に寄与するコミュニケーション能力等も求められます。これらの条件を達成するためには、民間事業者のスキルやノウハウ、アイデアを最大限に取り入れる必要があることから、本施設は引き続き指定管理者制度の活用が適当であると判断します。



開館時間

- 各エリアの主な利用者層のニーズを考慮の上、利便性が高く合理的な開館時間・閉館時間を設定します。検討の際には、商業エリアの営業時間との兼ね合いやセキュリティラインも考慮し、破綻のない計画とします。
- カフェは、施設の休館日（図書館の館内整理日等）でも商業施設と同様に営業可能な設えとすることを検討します。

※基本計画段階での想定



9 事業スケジュール

■ 施設整備スケジュール

- 令和11年度の開館を目指して、関係者で協力しながらプロジェクトを進めていきます。

